

インターネットで情報収集 —信頼できるサイトの見分け方—

インターネットは情報を収集したり発信したりするのにとても便利です。しかしインターネット上には、信頼性に劣るサイト、間違った情報を発信するサイト、他人を騙そうとするサイトもたくさん混在しているので注意が必要です。

01 授業の課題やレポート作成の際の情報収集

ブラウザからGoogleなどで検索をすると、Wikipedia（インターネット版百科事典）など情報を提供してくれるいくつかのサイトにいきつくでしょう。情報を収集するのにインターネットはとても便利な手段です。とくに、速報性という点ではインターネットに勝る媒体はないといってもいいでしょう。しかし一方で、インターネット上には誤った情報や信頼性に劣る情報も少なくありません。たとえば、インターネット版の百科事典ともいえるWikipediaにしても、間違いが発見されることが後を絶ちません。また、ソーシャルメディアが普及した現在では、口コミ情報など偏った情報や信頼性に劣る情報が氾濫しています。そのため、GoogleやYahoo!などの検索エンジンで調べた結果を安易に用いることはおすすめしません。

では、インターネット上の情報の信頼性を判断するには、どうしたらよいのでしょうか。これはなかなか難しい問題です。一つのコツは、できるだけ一次資料や出典を確認することです。たとえばWikipediaならば多くの項目に「参考文献」や「脚注」が記されています。これらの原本にあたって確認することで、信頼性を判断することができます。その際、前述したOPACを活用して、一次資料を図書館で入手し、そちらを参照すればよいのです。つまり、インターネットと図書館の双方をスマートに活用していくことこそが、効率的な文献探しへの近道ともいえます。

授業の課題やレポート作成で言葉の意味を調べたい場合には、下記で紹介しているような法政大学図書館のホームページからアクセスできる百科事典などのデータベースをまずは参考にしましょう。より詳しいデータを収集したい場合には、個人が開設しているブログのようなサイトではなく、できるだけオリジナルのデータを提供しているサイトを参考にしましょう。国の省庁、研究機関、学会、自治体、企業などの公式サイトは一般に信頼できるサイトといえます。

02 以下の①～⑥は法政大学図書館の公式サイトからアクセスできます

① オンラインで辞書や辞典を引く

日本大百科全書、日本国語大辞典、ランダムハウス英和大辞典、デジタル化学辞典といった百科事典や辞書、会社四季報や週刊エコノミストなどの情報・ニュースなど60種以上のコンテンツを利用できる「Japan Knowledge Lib」や、ブリタニカ国際大百科事典・ブリタニカ国際年鑑などが利用できる「Britannica Online Japan」などがあります。

2

オンラインで新聞記事を読む

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞など国内主要紙の記事検索データベースのほか、London Times紙の1785年の創刊から2013年(毎年1年分追加)までの全紙面を検索できる「THE TIMES Digital Archive」、New York Times紙の1851年の創刊から最新号までを検索・閲覧できる「ProQuest」などのデータベースがあります。

3

書籍の検索

法政大学図書館OPACでは本学の図書館に所蔵されている資料が検索できます。本学で所蔵していない書籍は、下記のデータベースで調べることができます。

サイニー

CiNii Books

全国の大学図書館等が所蔵する本(図書や雑誌等)の情報を検索できるサービスです。国立情報学研究所が運用する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に蓄積されてきた全国の大学図書館等約1,200館が所蔵する、約1,000万件(のべ1億冊以上)の本の情報や、約150万件の著者の情報が検索可能です。

NDL Search

国立国会図書館をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できる「『知』のアクセスポイント」です。

bookplus

1926年から現在までに出版された本の情報約510万件を収録しています。本の要旨・目次・あらすじ、表紙書影、著者紹介情報も掲載しています。



オンライン・データベースを使ってみよう!

法政大学図書館の公式サイトトップページから「オンラインDB」というバナーをクリックしてみましょう。「データベース」というページには、学習や研究に役立つ情報がたくさん詰まっています。ここではその中のいくつかを紹介しました。具体的な検索の方法については図書館員にたずねたり、ガイダンスに参加して確認してください。自分の研究のために、ぜひ積極的に利用しましょう!

《自宅から法政大学図書館のオンライン・データベースを利用するには》

オンライン・データベースは、大学内だけでなく、自宅のパソコン等、キャンパス外でも利用できます(一部例外あり)。その際、VPN (Virtual Private Network) 接続をする必要があります。VPN接続サービスの詳細については、「法政大学全学ネットワークシステムユーザー支援webサイト」(<http://netsys.hosei.ac.jp/>)を確認してください。

4

雑誌掲載論文の検索

研究成果が発表されるのは図書だけではなく、学会誌や紀要などの定期刊行物にも多くの論文が発表されています。どのような定期刊行物にどのような論文が掲載されているかについては、以下のデータベースで調べることができます。

サイニー

CiNii Articles

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。約2,150万の学術論文情報を収録しています。

magazineplus

明治から現在までの雑誌記事・論文が検索できるデータベースです。一般誌、専門誌、文芸誌、大学紀要、海外誌紙など多分野を網羅しています。約1,940万件の論文・記事を収録しています。

JDreamⅢ

科学技術や医学・薬学関係の国内外の文献情報を検索できる、日本最大級の科学技術系総合データベースです。分野を意識することなく科学技術文献が検索できます。外国語文献でも日本語の概要あり、約8,000万件の文献等を収録しています。

5

企業情報の検索

大学図書館のオンライン・データベースには企業情報等も豊富に収録されています。研究の資料としてももちろんですが、就職活動の際に気になる企業を調べてみるのも一つの手です。

日経テレコン21

日本経済新聞をはじめ、日経産業新聞、日経MJ（流通新聞）の新聞記事を収録したデータベースです。そのほか日経会社プロフィール、財務情報、各種統計データなど、レポート作成や研究、就職活動に幅広く活用できます。

東洋経済デジタル・コンテンツ・ライブラリー

『週刊東洋経済』『一橋ビジネスレビュー』『会社四季報』『就職四季報』など、東洋経済新報社の経済・ビジネス・企業情報誌をWEBで検索・閲覧できる図書館向けオンラインデータベースです。

イーオーエル

eol

国内株式公開企業の「有価証券報告書」を中心とした企業情報（最大1961年から）を収録しているデータベースです。豊富な財務情報・非財務情報、コンテンツ、多様な検索機能を搭載し、企業活動や業界に関する情報収集・分析レポート作成に活用することができます。

マージェント

MERGENT Online

全世界約100カ国以上、約4万1,000社強にのぼる、主要な上場企業の企業・財務情報を、詳細かつ広範囲にカバーするデータベースです。

6

文献管理ツール

「RefWorks」を使って、収集した文献情報を管理したり、参考文献リストを手早く作成したりすることができます。また、「End Note」や「Mendeley」はフリーの文献管理サービスのため、簡単に利用することができます。



法政大学図書館にない資料を手に入れるには

法政大学図書館のレファレンスカウンターを利用する

他大学等で所蔵している資料は、図書館間相互協力によって、レファレンスカウンターを通じ、図書の取寄せや複写のサービスを受けることができます(有料)。他大学図書館等を直接訪問する場合は、紹介状を発行します(一部のサービスについてはOPACへログインすることでオンライン申込もできます)。

法政大学各図書館に購入希望を出す

図書を購入してほしい時には、開架・閉架各カウンターで依頼することができます。また、OPACへログインすることで、オンライン申込もできます。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟図書館を利用する

法政大学図書館は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに加盟していますので、加盟図書館との相互サービスを受けることができます。加盟図書館を直接利用することが可能ですが、それぞれの図書館の利用方法をよく確認したうえで利用しましょう。

国立国会図書館を利用する

「NDL ONLINE」で東京本館に所蔵されていることが確認できたら、国立国会図書館に行くのも一つの方法です。満18歳以上なら誰でも利用できますが、利用の仕方に大学図書館や一般の図書館とは異なる点がありますので、注意してください。なお、国立国会図書館では個人への館外貸出は行っていません(制限はありますが、複写は可能です)。

C O L U M N

インターネットの落とし穴

ここでは、学習のための情報収集以外のインターネット利用について考えてみましょう。

1. 就職活動におけるインターネット利用の注意点

「誰でも絶対に内定が取れる極秘マニュアル!」のようなものを数万円で売りつけ、就活に悩む学生を騙すことが目的のサイトも横行しています。検索順位、フォロー数とフォロワー数の比率、Facebookにおける「いいね」の数などSNSにおける評価も指標となりえますが、必ずしも正しいものではありません。自分で判断できない場合には大学のキャリアセンターに問い合わせてください。

2. 買い物(ネット通販)での利用の注意点

信頼できる通販サイトを判断する、ひとつの目安として、Webアドレス(URL)が必ずhttps://で始まっているかや、安全性・プライバシー保護のための南京錠マークがあるかを確認する方法があります。この2点が確認できない場合には信頼できるサイトとは言えません。また特定商取引法で、事業者の名称、住所、電話番号、代表者等の氏名が明記されることが義務付けられています。連絡先メールアドレスが無料で取得できるもの(GmailやYahoo!メールなど)であることはほとんどありえません。また、クレジットカード番号などの個人情報の入力ではできるだけ避けるようにし、どうしても使用の必要性がある場合には、セキュリティ保護があるかどうか十分に注意しましょう。

